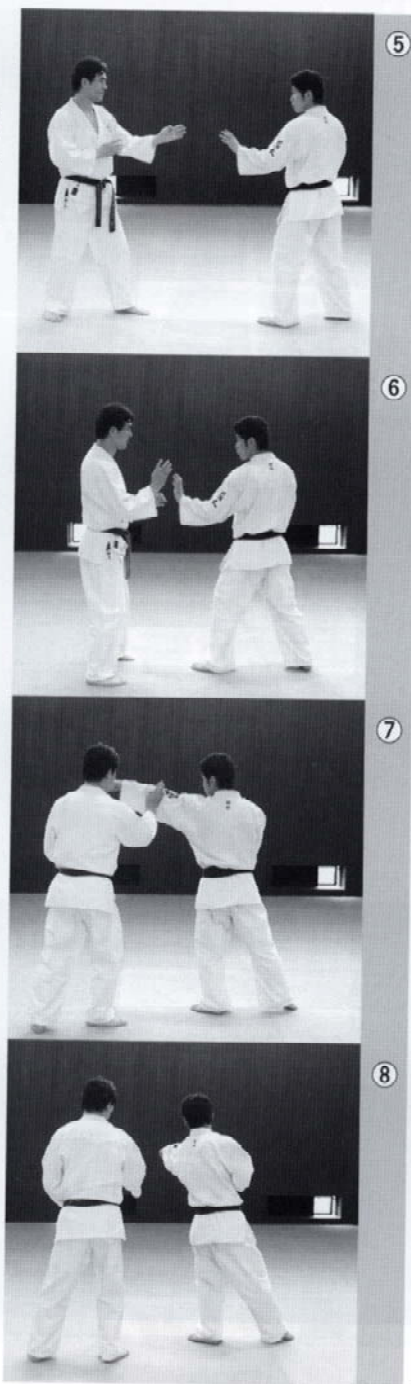
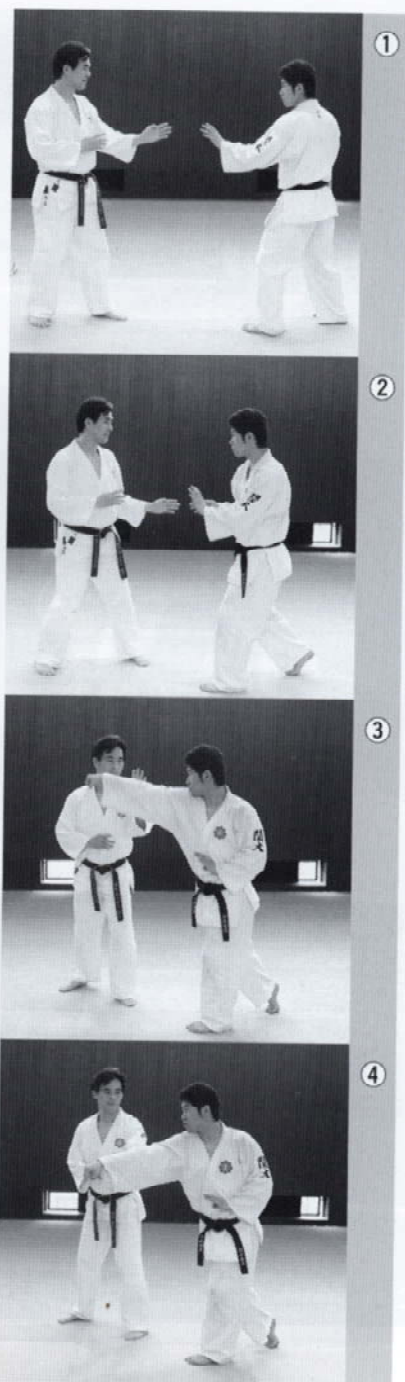
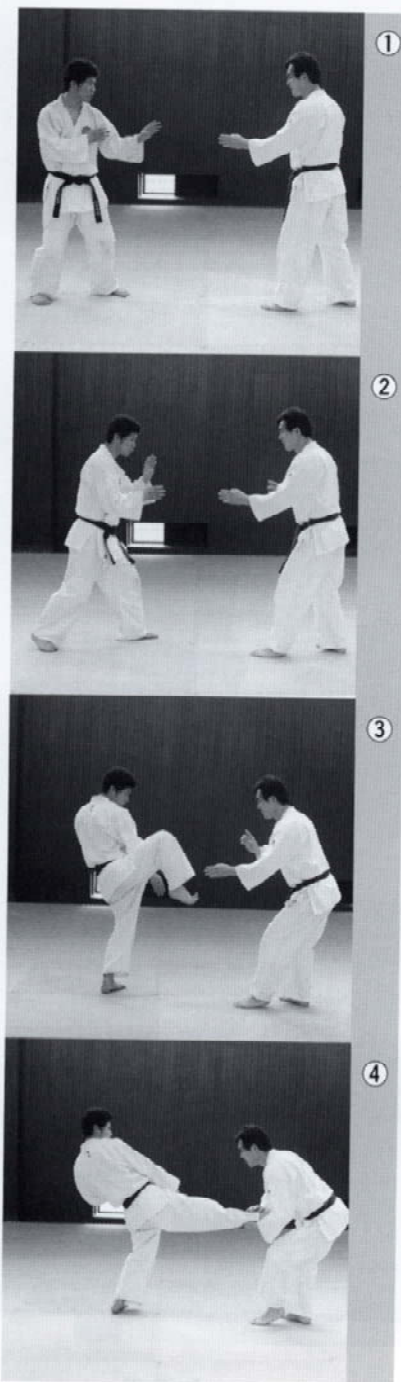


「H」開身ひらみ（前半・受けの部分・◆受け・かわしからの反撃「D」「E」へ続く）



「I」退身ひきみ



①～④横受けで受けつつ相手の横に移動する。右に開くか、左に開くかで足捌きが変わる。左開身の場合、相手の右拳の突きに対し、左横受けをし、その勢いに乗せてそのまま腕を回転させ、横打ちの反撃に入る。
◆受け・かわしからの反撃「E」に続く。

⑤～⑧基本的に相手の左拳の攻撃に対し、右に足を一步出すと同時に右横受けをし、その勢いで腕を回転させて横打ちの反撃を打つ。
◆受け・かわしからの反撃「D」に続く。
「このかわし技は必ず受け手をつけます。受け手をつけて受け流し、その惰力と反発力を利用して横打ちで反撃することにより腕は二回転することになり、受技と攻技の連続技として攻防一体の開身が完成します」

（雑古七段）

①～④主に突蹴に対して、後ろ足のヒザを曲げ、腰を落とすことにより、腹部に空間を作ってかわす。
「ヒザを曲げ、腹部をくの字に後ろへ引くことにより、腰を落とした安定した姿勢で相手の攻撃をかわすこととなります。基本的には後ろに下がりますが、試合では後ろに下がりがなから使うこともあります」

（雑古七段）